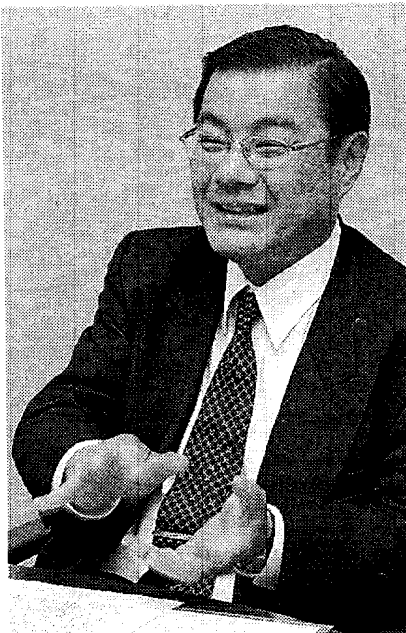


今年の県内景気は？ 新春経済対談

今年の県内経済はどうなるのか。また、団塊世代の大量退職はどんな影響をもたらすのか。昨年は「いざなぎ景気」を超える戦後最長の好景気に入ったといわれたが、庶民には実感がない

という声も多かった。日本銀行山形事務所長・藤江泰郎さんと荘銀総合研究所主席研究員・熊本均さんが「07年」を大胆に予想、提言した。(司会・構成 角田要)



日本銀行山形事務所長
藤江 泰郎氏

ふじえ・やすろう 東京都生まれ、50歳。慶応大経済学部卒業後、79年に日本銀行入行。調査統計局経済統計課長、神戸支店次長、名古屋支店発券課長などを経て、06年3月から現職

藤江 地方・消費：波及の年

「07年の県内経済を一言で表すと、どんな言葉になるでしょう。」

藤江 「波及の年」だと思います。中央から地方。製造業から非製造業。設備投資や輸出から消費。なかなか波及しなかった06年から、影響が及ぶようになるんじゃないでしょうか。

「07年の県内経済を一言で表すと、どんな言葉になるでしょう。」

藤江 オークストラに例えれば、管楽器が設備投資、ティンパニが輸出だとすると、それがガンガン鳴っていたのが06年の経済。オークストラの中心は本来、弦楽器で、これが消費。07年は弦楽器も鳴るのではないのでしょうか。もう一つはオークストラのコラボレーションが高まる年かな。山交流が一段と増してくるとか、南東北3県の観光の連携が高まるとか、他のオケとのコラボが高まる年になるのかな、と思いますね。

「07年の県内経済を一言で表すと、どんな言葉になるでしょう。」

藤江 「いざなぎ景気」を超えたからその景気が傾くって話が出てくるけど、実はまだ拡大の中期くらいなんじゃないかと思ってるんです。今の経済はパンパンに張りきった状態ではない。いざなぎを超えてもまだ経済は暖まってない。だからみんな実感がなくて、余力があるということなんですよ。

熊本 景気を天気为例えらなら「薄曇り、所により晴れ」。「薄曇り」は、まさしく消費がどうなるか。ここが盛り上がるらないとスカッと晴れない。「所により晴れ」は、企業筋に景況判断を聞くと地域的格差があって、村山南部は好調が続いているが、庄内の一部や最上は停滞感があったり全県晴れとは言いつら

熊本 昨年はボーナスを上げた企業が多かった。消費拡大の発射台と

熊本 ものづくり、電子電機、一般機械、輸送機械。このへんが力強くなると、賃金にも波及しやすい。アクセルが踏まれる感じになる。

藤江 大胆な仮説です

熊本 薄曇り、所により晴れ



荘銀総合研究所主席研究員
熊本 均氏

くまもと・ひとし 酒田市生まれ、46歳。北海道大経済学部卒業後、富士銀行(現みずほ銀行)などを経て、98年4月に荘銀総合研究所の設立と同時に入社。06年10月から現職

が、これから景気拡大の後期に入って、賃金が上がる可能性があるんじゃないか。もちろん、いくつも前提条件はありますが、景気は引き続き拡大していく可能性がある。賃下げという話は聞こえないし、パート比率も上げ止まっている。有効求人倍率も1倍を超えてますから。

熊本 「農の芸術品」戦略も

藤江 CO₂ 排出権に目を

——農業界の山形。今後、どうあるべきかと思えますか。

熊本 山形の農業の先行きを見る上で考えなければいけないのは、農産物の輸出。例えばリンゴは、イギリスに持って行くのと、かつて日本で食べられてたような小玉で硬めが喜ばれる。中国では日本ではジュース用になるような大きいものが高く売れる。いろんな価値基準

があるんです。食品を超えた芸術品の域、ステータスシンボルというか贈答用の商品作物、そういう戦略があつていい。

藤江 農業が行き詰まつていと言われるが、山形には可能性がありま

す。山形で再建に成功すれば、全国でも先端に足を踏み出せるかもしれないですね。

熊本 逆に言うと、山形でうまくいかなければ、どこもうまくいかな

い。高齢化は深刻ですが、まだ人がいる。山形は試されている。

藤江 環境問題もそうです。緑がある。二酸化炭素(CO₂)排出権の議論で言えば、地球のため、日本のために緑を維持して下さいということが、将来的には起きてき

そうな気がします。——一世帯当たりのCO₂の排出量は全国的に

も多いですが、緑も多いのが山形ですね。

熊本 CO₂の国際的な排出権取引が広がる

と、我が山形が日本の排出権を生産しているじゃないか、となる。

熊本 環境をみんなですりましようとする精神論で

藤江 今まで無価値だったものが価値になる。空き地があつたら木でも植えようか、みたいな。

熊本 排出権取引が本格化すれば、CO₂は企業のコスト要因になるわけ

です。排出権が公共財としての意味をなして、緑を持つてい

て、緑を公共財を持つてい

藤江 地方交付税だつて、緑地面積とか、排出するCO₂量も考慮されるようになれば、今まで無価値だったものが公共

財として意味が出てくる。スギやマツやフナ、木の種類によって価値が違つたとすると、価値の高い木を植えようということになる。

熊本 環境をみんなですりましようとする精神論で

藤江 最上は過疎の地域だと言われていますが、緑は豊富にありますから

ね。

熊本 団塊のニーズ追い風 藤江 満足与える企画必要

——団塊の世代が大量退職を迎えます。いわゆる07年問題です。

熊本 製造業の技術技能の伝承、退職金、年金の財源が問題になりま

す。悪いことばかりのように言われますが、団塊世代の退職で生じる巨大な需要、観光とか余暇の分野では山形には追い風だと思えます。

とかに引っ張ってくる。

熊本 「癒やし」のよ

ろな、古い日本の田舎を歩いてみたいという点では、山形は資源がたくさんある。庄内では、これまで来なかったような人がガイドブック片手に鶴岡の街並みを歩いていきますよ。

藤江 温泉や自然だけでは飽きます。旅行に対する目は肥えてきている。企画が必要です。藤

沢周平の本を片手に持ちながら映画ロケ地を巡るとか、ニーズに当てはめて用意しないといけない。人生の一区切りを迎えた人たちにご褒美として、満足を提供できるよ

うなものが必須です。熊本 07年問題への対策を、しっかり準備しておかないと、大量のニーズをみすみす逃すことになりかねない。もったいないですよ。

藤江 団塊世代は、東北からの集団就職世代でもあるんです。今、東京に住んでいる集団就職組の4分の1は東北出身。その人たちを、どう東北に再び取り込むか。

熊本 首都圏で活躍して、高度技術者や会社経営者、企業で管理職をしていた人たちに山形に移り住んでもらって、能力や人脈を生かして地域

力になって頂く。応援団、指南役として、産業人材としての団塊の世代という見方もできます。その場をどう用意できるかが問われる。

藤江 一方で、米沢の小野川温泉では、東京に出た若者が戻り始めているらしいんですよ。温泉街としての小野川のブランド力が増して、東京で「オレ、小野川出身だよ」と自信を持って言えるようになった。温泉街だけでなく、農業でもやらなければいけないと思います。若者に戻ってきてもらうためには、山形全体で「山形っていいでしょ」という雰囲気になることが大事。「山形に帰れるの？」うらやましいね」と言ってもらえるような県にしないといけないよ。